

# PROGRAM

ソナタ イ短調Op42 シューベルト

モデラート  
アンダンテボコモッソ  
スケルツォ  
ロンド

妖精はよい踊り子  
ヒースの茂る荒地  
奇人・ラヴィーン將軍  
月の光がふりそそぐテラス  
水の精

ドビュッシー

タベの調べ  
メフィス・ワルツ 第1番

リスト

インタビューー 太田 茉莉  
森田 真実

## 四季のコンサート 夏

1984年7月19日(木) PM 7:00

浜松市民会館

主催 浜松音楽友の会

後援 浜松市教育委員会

ピアノ 高橋 雅治

吉原すみれ打楽器リサイタル

冬のコンサート 12月4日(火) PM6:30

東 敦子 ソプラノリサイタル

秋のコンサート 10月15日(月) PM7:00

よろしくご配慮下さい。

に鑑賞下さい。特にお子様と一緒にの御父兄様は

よりよい演奏会になりますよう、演奏中は静かに

演奏中の入場・席の移動は固くお断り致します。

。会員券のないお子様の入場は御遠慮下さい。

な活動で麗美な地歩を占めている。

を本拠に、リサイタル、オーケストラとの協演、室内楽等の活発

以後、日本を代表するピアノのひととして、ニューヨーク

評価された。

リサイタルを開き、大成功を収め、ニューヨーク・タイムズで高く

位入賞。翌年ニューヨークのカート・ホーランド・ホールでデビュー・リ

1969年第3回ワグネル・クラシック・コンクール第2

楽舞踊批評家協会より1968年度最優秀演奏家賞を受賞。

ホーレン氏に師事した。1968年海外派遣コンクールに優勝、音

エト文化省の招きで、モスクワ音楽院に2年間留学し、レフ・オ

1963年第32回音楽コンクール第1位大賞受賞。1966年ソビ

校、大学、ソビエト留学まで井口愛子氏に師事した。

1945年横須賀市に生まれる。3才からピアノを始め、嗣明高

野島 稔 (のじま みのる)

ピアノリサイタル



野島 稔 ピアノリサイタル

「野ばら」や「魔王」などの作曲で知られている「歌曲王」シューベルトは1793年ドイツのリヒテンタールで生まれ、1823年ウィーンで亡くなったウィーン古典派最後の作曲家である。わずか31年の生命だったにもかかわらず、この間に、歌曲を中心として1000点もの器楽曲、交響曲、室内楽曲などを作っている。彼独自の旋律の美しさは、歌曲によって一番生かされているが、ソナタの中でも、部分的に非常に豊かな旋律を歌い上げているものが少なくない。

このピアノ・ソナタは、ソナタとしては、書き始めて10年目、中期の作品であるが、シューベルト自身も「グランド・ソナタ」と記し、ベートーヴェンが数々の自作を献呈していたことで知られるルドルフ大公に献呈されていることから、相当の自信作だったと思われる。曲は第楽章より成り、堂々たる威厳を持った曲で傑作の一つと数えられている。

## 前奏曲集

Debussy (1862-1918)

ドビュッシーは印象派の音楽家とされているが、この印象派という言葉は非常に曖昧でわかりにくい。これは絵画の印象主義、文学の印象主義に匹敵するもので、ボードレールやマラルメ、クレールやモンダリオンなど密接な関係がある。

この時代、音楽でも浪漫主義が限界に達し、作曲家は新しい道を切り開こうとあらゆる手法を試みたが、これといって打開策は見つからなかった。そのような時、ドイツではワグナーが半音階的技法を確立し、新しい道への第一歩を踏み出したかのように見えた。しかしこれも結局、浪漫主義の中での発展に留まり、現代を切り開く所までは行かなかったようだ。しかし、ヨーロッパ中の作曲家がワグナーの影響を受けたことは確かである。ドビュッシーも初期のうちにそ傾倒していたが、彼は早々と見限り、真に新しい音感覚によって現代への手がかりを提唱したのである。ワグナーは、それまで絶対であった機能と和声の押し推した究極であったが、ドビュッシーのそれは機能と和声のいわゆる禁例を頻りに用い、東西の旋法などを取り入れることによって作られている。

この「前奏曲集」は、ドビュッシー晩年の作で、最も円熟した時代のものであり、そしてドビュッシーの全作品中、最も素晴らしいものの一つである。これは、I巻、II巻各12曲ずつで計24曲、たぶんショパンの24の前奏曲集を意識したものと思われるが、その第II巻から4曲〜8曲までを演奏する。

### 妖精はよい踊り子

パリの「ビクター・バン」の中に、蜘蛛の糸の上で仙女が蜘蛛の弾くチェロに合わせて踊る場面があるが、その踊る仙女を描いた画をもとに作曲された。

5連符・7連符・トリルなど、多彩なリズムで、仙女の舞を形容する。

### ヒースの茂る荒れ地

第1集「亜麻色の髪のおとめ」を思わせる。五音音階による単旋律の主題で始まる冒頭や、再現部でもう一度主題がオクターヴ高く歌われるところも同じ手法によるものである。

ヒースは、白・紫色の花をつけるシャクナゲ科の灌木。そのヒースが生い茂った荒れた草原に、ヒバリが時たまさえずる。

### 奇人・ラヴィーヌ將軍

ラヴィーヌ將軍とは1910年当時、パリの劇場で人気のあったあやつり人形のことである。ロートレックの風刺画にある皮肉屋で奇想天外なキャラクターから、着想を得ている。「子供の領分」の中にある「ゴリウォックのケーキ・ウォーク」を連想させるが、冒頭に「ケーキ・ウォークの様式と動きで」と標示されているとおり、同一のリズム・パターンを持つ。尚、ケーキ・ウォークとは19C末のアメリカ黒人音楽に由来するダンス音楽である。

### 月の光がふりそそぐテラス

ドビュッシーの作品の中で「月の光」を題材としているものが、幾つかあるが、これは印象主義の絵画と同じく光を描写するテラスで、音楽においても貫かれている表われである。「光なくして印象派は語れない」といっても、言い過ぎではないと思うが、こと「月の光」を題材としたものに関してドビュッシーは、どれも絶妙なうまさを見せる。

この曲は、インドについて書かれたものから着想を得たらしいが、クロマティックな線と緑と赤、音塊で色づけされた東洋的な響きが聞こえる。

### 水の精

ドイツの詩人フーケの書いた「オンディース（水の精）」にもとづいて作曲されたもので、ドビュッシーの響きとリズムの革新を証明する、「前奏曲集より」の最後を飾るにふさわしい曲である。同時代のラヴェルも、同じ題材で曲を作っている。幻想的な水の精の世界を表わす。

## 超絶技巧練習曲

Liszt (1811-1886)

リストは大変なピアノの名手であった。聴衆はリストの妙技に感嘆し、彼はさらに難しい技巧を有する曲を作って披露した。当時は、作曲家と演奏家の区別がほとんどなかったため、彼に優る作曲家兼ピアニストは稀にしかいなかった。そういう意味で作曲された「超絶技巧練習曲」は今でも多くの演奏家がレパートリーの一つに取り上げるが、リストの時代では「リスト以外に演奏できる者はいない」と言われたほど難曲とされていた。

リストと同年代に、やはりバイオリンの名手でも作曲家でもあるパガニーニがいた。彼は作曲においてはリスト程の個性の持ち主とは言えないが、リストは「ピアノのパガニーニになる」ために技巧を追求した。リストのピアノ曲はオーケストラのような色彩や厚みを持ったものが多いが、これも彼の演奏家としての名人芸的な表われであることを否めない。しかし、よい意味でそれが一つの個性となっている。

### タベの調べ

題のとおり、タベの雰囲気を表わしたものの。静かなタベに突如、鳴り響く鐘の音、そして又再び何事もなかったかのように夕闇だけがあたり一面を覆っている。そのような情景が思い浮かぶ。

### メフィスト・ワルツ 第1番

リストは1860年49歳の時、ドイツの文学者レーナウの叙事詩「ファウスト」による「管弦楽のための2つのエピソード」を作曲した。この第2曲「村の酒場の踊り」をピアノ独奏用に編曲したものが「メフィスト・ワルツ第1番」である。

悪魔メフィストがファウストを連れて村の居酒屋へ表われ、自らバイオリンを弾き出す。人々は悪魔の魅力あふれる音楽に魅了され狂ったように踊り出す。ファウストはメフィストの魔力で踊っている途中に知りあった村の娘と愛し合うようになり、二人は森に姿を消していく、というあらすじである。愛し合う二人を見て、悪魔が高笑いするようなコードで曲を終わる。